

第1学年 音楽科学習指導案

1 題材名 曲想を感じ取って、表現の仕方を工夫してリコーダーを演奏しよう。

教材名 表現「聖者の行進」(アメリカ民謡/浦田健次郎 編曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (2) ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。

[共通事項] ア 音色, リズム, 旋律

(1) 題材観

昨今の中学生は、とりわけアーティストのビジュアルやキャッチーな歌詞に音楽の焦点が当たっている楽曲を聴く傾向がある。その中で楽曲を形づくる要素や構造等の音楽のよさや美しさを感覚的に感じ取ってはいるが、曲想を構造的に理解している生徒は少ない。そこで、器楽音楽において曲想に焦点を当て、より構造的に楽曲へ迫れるようリコーダーを使用したアーティキュレーションの工夫を本題材で取り上げた。

本題材は学習指導要領のA表現の内容(2)アの「曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること」に関する学習内容である。小学校で扱っていたソプラノリコーダーとの音域、音色の違いに気づき、アーティキュレーションの工夫などアルトリコーダーでの表現方法を学習し、表現したい思いや意図をもつことにより、表現の工夫をする活動につなげることをねらいとしている。

本校の研究主題「生きる力を育むための教育実践のあり方～基礎・基本の定着を図り、意欲的な学びを促す教育活動の工夫～」を受けて、音楽科として「音楽活動の基礎的な能力を養い、思いや意図をもって主体的に表現する姿勢を育てる指導法」を研究主題に設定した。今回の授業では「基礎・基本の定着」ということで、器楽演奏の基本であるアーティキュレーションの工夫を学習する。さまざまなアーティキュレーションの工夫をすることにより、生徒一人一人が、思いや意図を持ち、表現したい意欲を促し、主題にせまることができると考えた。

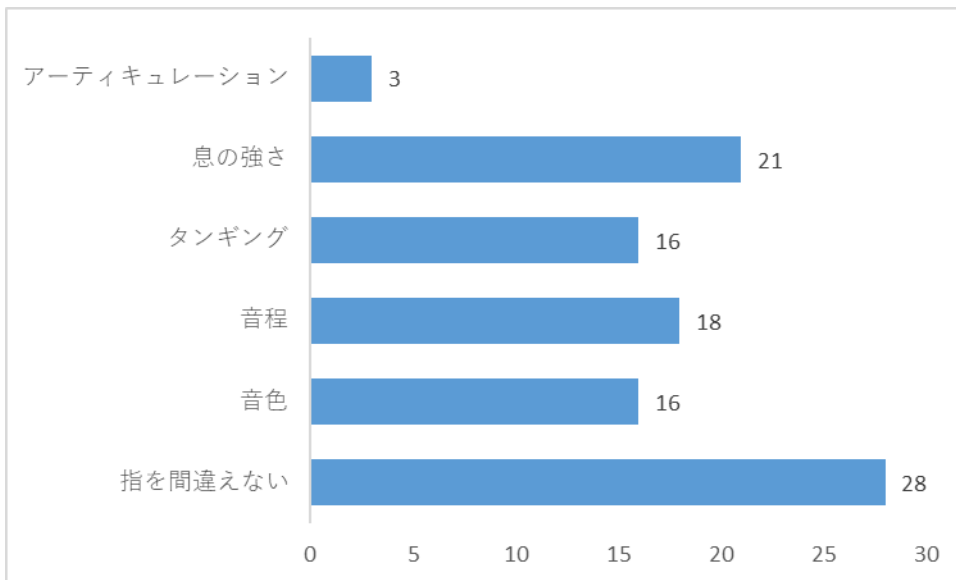
また、本題材で「表現を工夫して演奏する」学習から、3年間を通じてアルトリコーダーを使用し、創作の分野の学習にもつなげていきたいと考えている。その足掛かりとして、楽曲のよりよい表現のために、音色、旋律、リズムなどの要素の関連や構造から曲想を感じ取り表現することや、その表現を、どの程度の音量、どのような音色、発音で演奏したらよいかを実際に試したりする活動を積み重ね、これからの学習につなげて、3年間を通して深めていきたいと考え本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級は、素直で明るく活発な生徒が多い。リコーダーにおいても抵抗なく音を出すことができ、主体的に活動している様子がある。アルトリコーダーに関しては、組み立て方・片づけ方・基本的な運指（ド～ソ）を覚えたところである。事前アンケートの結果は以下のようである。（調査人数32人、複数回答・記述式）

1. リコーダーを演奏する際に注意していることはなんですか。

- ①指を間違えないようにする ②音色 ③音程 ④タンギング ⑤息の強さ ⑥アーティキュレーション ⑦その他



⑦その他（呼吸のタイミング）

2. 小学校のときに、リコーダーでどんな曲を演奏しましたか。

- ・カノン ・テルーの歌 ・もののけ姫 ・ルパン三世のテーマ ・あまちゃん
- ・カントリーロード ・オーラリー ・小さな世界 ・茶色の小瓶 ・君をのせて
- ・エーデルワイス ・キセキ ・ふるさと ・栄光の架橋 ・ドラゴンボール
- ・さんぽ ・小さな世界 ・誕生日の歌 ・サザエさん ・ミッキーマウスマーチ
- ・キリマンジャロ ・風を切って ・そよ風のデュエット ・ジュピター ・恋
- ・夕焼け小焼け

3. 小学校の時に、どんな楽器を演奏しましたか。

- ・オルガン ・鍵盤ハーモニカ ・木琴 ・鉄琴 ・大太鼓 ・小太鼓 ・ピアノ
- ・マラカス ・タンバリン ・トライアングル ・鈴 ・シンバル ・ベル ・篠笛
- ・キーボード ・バスマスター ・アコーディオン

<考察>

アンケート結果から、小学校の時にソプラノリコーダーに慣れ親しんできたことが分かった。リコーダーの演奏の際には、運指のことと息の強さに注意しながら演奏している生徒が多い。その反面、アーティキュレーションについては意識している生徒は少ない。また、アンケートの途中で「アーティキュレーションとはどういう意味か」との質問があり、アーティキュレーションという言葉の意味が浸透していない現状も分かった。そして、小学校のときに様々な楽器を経験してきていることから、楽器ごとの音色の違いや、楽器による表現の違いに気づく能力は身に付けていると考える。

そこで、小学校で身に付けている楽器ごとの音色や表現の違いから生み出される工夫から、本題材ではさらに発展した、アーティキュレーションによる表現の工夫し、より表現方法を深めていきたい。

(3) 指導観

「聖者の行進」は黒人霊歌の一つで、ディキシーランドジャズのナンバーである。「ド・レ・ミ・ファ・ソ」のみの限定した音を使い構成されており、アルトリコーダーでも左手だけで容易に演奏が可能である。世界各国で演奏されていて、ジャンルも様々な形がある。日本においてもたくさんの演奏がなされており、楽譜もたくさんの種類が発売されている。その一つ一つ毎に編曲・アーティキュレーションの工夫があり、アーティキュレーション一つとっても、様々なオリジナルのある表現を工夫することが可能な楽曲と考えられる。授業では、生徒の思いや意図を反映させ、アーティキュレーションにおいて幾通りもの表現を工夫させていきたい。

3 題材の目標

○表現したい思いや意図をもち、よりよい表現の方法を見出して演奏を工夫する。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	曲想（その音楽固有の表情や味わい）に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方など）を身に付けて演奏している。

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

視点との関わり

小学校でソプラノリコーダーを学んでいる過程がある。また、楽曲の曲想を様々な楽器で音色を変えて工夫する学びをしてきたことから、中学校ではアルトリコーダーでアーティキュレーションの工夫で曲想を変化させる学びにつなげていきたい。4種類のアーティキュレーションから組み合わせを工夫することで、小学校での楽器による曲想の工夫から、より発展した曲想の工夫へと学びを深められると考えている。

6 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
1次	1	ねらい 「聖者の行進」を思いや意図をもって、表現を工夫する。	
		○聖者の行進を演奏し、曲想を感じ取る <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読む ・姿勢、呼吸法を意識して演奏する ・作曲された経緯を知る ・スムーズに演奏できるように練習をする 	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (表現の技能)
	2 〔本時〕	○自分の思いや意図を、曲に反映させて演奏する <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなアーティキュレーションを学習する ・アーティキュレーションを活かして演奏する ・「聖者の行進」にふさわしいアーティキュレーションを考える ○仲間の発表を聴いて、様々な思いや意図をくみ取る <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図を反映した「聖者の行進」を発表する ・発表を聴いて、同じように演奏する ・演奏して感じ取ったことを発表する 	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫) 曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能(奏法, 呼吸法, 姿勢や身体の使い方, 読譜の仕方など)を身に付けて演奏している。 (音楽への関心・意欲・態度)

7 本時の学習（2／2）

（1） 本時の目標

○アーティキュレーションを活かして、曲想にふさわしい表現を工夫する。

（2） 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法）
導入 10分	<p>1 導入の活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がピアノで号令の楽音を出す ・まねっこメロディーで運指の練習をする ・「ソファソ」の繰り返しで様々なアーティキュレーションを演奏する。 <p>2 本時の目標を知る。</p>	<p>○姿勢、楽器の支え方、タンギング、息の強さを考えて演奏することを確認する。</p> <p>○本時の目標を確認する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 旋律の感じに合ったアーティキュレーションを工夫しよう </div>		
展開 ① 15分	<p>3 教科書に載っているアーティキュレーションを演奏して試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンレガート、スタッカート、テヌート、レガート ・教科書に載っているパターンで、アーティキュレーションを組み合わせて演奏する。 	<p>○一つ一つ、アーティキュレーションの記号と発音の図を板書しながら確認する。</p> <p>○実際にリコーダーで演奏しながらアーティキュレーションを確認する。</p> <p>T：「スタッカートで演奏すると、フレーズはどのように感じますか。」</p> <p>C：「飛び跳ねているような感じ」「元気な感じ」</p> <p>○生徒が曲想の雰囲気合うアーティキュレーションを工夫できるように助言をする。</p>
展開 ② 20分	<p>4 自分の考えたアーティキュレーションの組み合わせを発表する。</p> <p>5 「聖者の行進」のアーティキュレーションを考える。</p>	<p>○何人か、工夫ができている生徒を選び、みんなに発表させる。</p> <p>○アーティキュレーションの組み合わせを参考に、オリジナルの表現ができるように声掛けをする。</p> <p>C：「レガートとスタッカートを組み合わせたアーティキュレーション」</p> <p>「テヌートとスタッカートを組み合わせたアーティキュレーション」</p> <p>○難しいと感じる生徒には8小節目までで良いことを伝える。</p>

<p>ま と め 5分</p>	<p>6 本時の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたアーティキュレーションを友達に聴いてもらう。 ・全員の前で発表をする。 ・発表した生徒のアーティキュレーションをみんなで演奏してみる。 <p>・プリントの振り返りを記入する。</p> <p>・生徒がピアノで号令の楽音を出す</p>	<p>◆アーティキュレーションの役割を理解し、自分の持っている「聖者の行進」へのイメージを曲に反映させ、曲の雰囲気を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(表現の創意工夫) <ワークシート></p> <p>○どんなイメージを持ってそのアーティキュレーションにしたのか、わかりやすい言葉で書くように助言する。</p> <p>○できるだけたくさんの生徒に、雰囲気に合ったアーティキュレーションになっているか、感想も併せて伝え合う機会をつくる。</p> <p>○何人か、工夫ができている生徒を選び、みんなに発表させる。</p> <p>○実物投影機で生徒のプリントをテレビに投影し、全員で生徒のアーティキュレーションを演奏できるようにする。</p> <p>○アーティキュレーションの工夫により、どんな雰囲気になったか発表させる。</p> <p>◆表現の工夫に関心をもち、プリントにアーティキュレーションの工夫を詳しく書き込むなど、思いや意図を持って演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度) <観察></p> <p>○振り返りに集中できる雰囲気を作る。</p>
---------------------	--	--

(3) 本時の評価

<p>Aと判断される生徒の学習状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図を持って主体的にアーティキュレーションの工夫をしている。 ・アーティキュレーションを組み合わせたたりして、旋律を演奏することができる。
<p>Cと判断される生徒への手立て</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・8小節目までのアーティキュレーションを考えるよう手助けする。 ・二つのアーティキュレーションのみでできる手立てを考えさせる。

(4) 板書計画

今日のめあて	旋律の感じに合ったアーティキュレーションを工夫しよう			アーティキュレーションの 組み合わせ 拡大楽譜
ノンレガート	スタッカート	テヌート	レガート	
楽譜	楽譜	楽譜	楽譜	

聖者の行進 拡大楽譜
